

野草観察

仲間の花 勢揃い—14

キキョウ科の花 6 種 (No.213～218)、キジカクシ科の花 2 種 (No.219・220)、キツネノマゴ科の花 2 種 (No.221・222)、キンポウゲ科の花 6 種 (No.223～228)、計 16 種を紹介します。

キキョウソウ



ヒナキキョウソウ



双方ともに北アメリカ原産の帰化植物です。よく似ていますが、葉の形や茎へのつき方で見分けることが出来ます。キキョウソウの葉は幅が広く、柄がなくて茎を抱いています。ヒナキキョウソウの葉はやや細くて先がとがり、茎を抱くことはありません。何れも花期は 4～7 月ですので、道端等で出会った折には比較しながら観察されてはいかがでしょうか。

キキョウ



ミゾカクシ



キキョウの花は直径 4～5 cm で、1.5 cm 前後のキキョウソウやヒナキキョウソウより大きく、花色は濃い青紫が基本ですが、園芸品種には白や淡い紫、淡いピンクなどがあります。ミゾカクシの花は直径 1 cm ほどで、花びらは横向きに 2 個、下向きに 3 個と片寄ってつきます。中央部にはへびが鎌首をもたげたようなものが見えますが、これは雄しべの葯が合着して花柱を取り囲んだ姿です。左上の写真は葯の合着部分を後方から撮ったものです。

ホタルブクロ



ヤマホタルブクロ



ホタルブクロの花は釣鐘形で長さは4～5 cm、花色には赤紫のものと白とがあり、がく片の間に反り返る付属片と呼ばれるものがあります。名前の由来は、夜捕まえた蛍をこの花の中に入れて遊んだことからと言われています。

ヤマホタルブクロはホタルブクロの変種で、山地に多く生育し、ほとんど外見は変わりませんが、ホタルブクロにつく付属体はありません。

オオアマナ



ギボウシ



オオアマナはヨーロッパ原産の帰化植物で、明治時代に観賞用として導入したものが野生化しています。

ギボウシの名前は、つぼみ又は包葉に包まれた若い花序が擬宝珠に似ることに由来しています。また、ウルイ、ギンボ、ウリツパ、アナマなどとも呼ばれ、若い新芽を食べる春の山菜としても親しまれています。

山形市公式ホームページには、『山形では「ぎんぼ」と呼ばれていますが、「ぎぼうし」という山菜です。味にくせがなく煮物にしてもとてもおいしいです』と掲載されています。

キツネノマゴ



ヤナギバルイラソウ



キツネノマゴは道端、草地、畑地などのやや湿ったところを好んで生えています。花は直径 8 mmほどと小さくてあまり目立たず、当初は見つけるのに苦労しました。

ヤナギバルイラソウはメキシコ原産の帰化植物で、直径 5 cmほどの花をつけます。土があればどこでも出てくるほど繁殖力が旺盛です。名前は、葉が柳の葉のように細長いルイラソウ(ルイラ草)から来ています。ルイラはフランスの植物学者ルイラにちなんでつけられた属(ルイラ)が転訛したものです。

キツネノボタン



ケキツネノボタン



双方ともに花の直径は 1~1.5 cm、花卉に光沢があるなど、区別が難しいです。図鑑によれば見分けのポイントは、茎や葉への毛の有無、葉の形状、果実の先の曲がり具合の 3 つあります。

ケキツネノボタンの特徴は、①名前に「ケ(毛)」がつくとおり、毛が多いのが特徴です(しかし、キツネノボタンにもヤマキツネノボタンと呼ばれる毛の多い種類もあります)。

また、②葉の幅が狭く先端が尖ること、③果実の先端があまり曲がらないことなどがあげられます。

タガラシ



センニンソウ



タガラシの名前は、水田のような水たまりによく生え噛むと辛味があることから「田辛子」、収量の少ない田に生えることから「田枯らし」という2説があります。キツネノボタンなどによく似ていますが、果実が細長いのが特徴です。

センニンソウの花は直径2～3 cmで、上を向いて平らに開きます。名前は、果実につく白い毛を仙人の髭に見たてたことに由来しています。

シュウメイギク



セリバヒエンソウ



シュウメイギクは直径7cmほどの白色～紅紫色の花をつけます。古い時代に中国から入ってきた帰化植物です。名前(秋明菊)について牧野富太郎博士は「秋に開花し、爽やかに見える」ためとしています。別名には貴船菊(京都の貴船山に多かったことから)などがあります。

セリバヒエンソウは明治時代に観賞用として導入された、中国原産の帰化植物です。花は直径2 cmほど。名前は葉がセリに、花がツバメの飛ぶ姿に似ていることから来ています。